

プログラム・ノート

池原 舞

イウエイゼン：トランペット・ソナタ

エリック・イウエイゼン(1954～)は、アメリカの作曲家。イーストマン大学、ジュリアード音楽院で学び、現在はジュリアードで音楽理論を教えている。トータル・セリエリズム(すべてのパラメータの各要素がセリー技法から導き出される作曲法)の推進者ミルトン・バビット(1916～2011)や、ジャズ・ミュージシャンでもあるガンサー・シュラー(1925～2015)など幅広いタイプの作曲家に師事しただけあり、イウエイゼンの作品は、前衛性とポピュラリティーが交錯する。とくに金管楽器のための作品が多く、吹奏楽界でも人気が高い。

トランペット・ソナタは、国際トランペット・ギルドより委嘱され、1995年に同団体主催のコンクールで初演された。

第1楽章は、夢想的な短い序奏で始まり、すぐにメロディアスな主題がトランペットからピアノへと受け継がれる。この主題を軸に新たな2つの主題が挟み込まれ、ドラマティックに展開する。

第2楽章は、シチリアーノ風。ときおり不穏な和音が舞い込み、エキゾチックな音色となる。

第3楽章は、トランペットとピアノのユニゾンで高らかな幕開けとなる。5拍子や7拍子を挟みながらリズムミックに2つの楽器が掛け合う。

クレストン：マリンバ小協奏曲 作品21

ニューヨーク生まれのポール・クレストン(1906～85)は、生前にはアメリカで頻繁に演奏された作曲家である。独学で作曲を学んだにもかかわらず、初めて出版社に持ち込んだ作品が、20世紀音楽に様々な革新をもたらしたヘンリー・カウエル(1897～1965)に認められてからほどなく頭角を現した。1940年作曲のマリンバ小協奏曲は、同時期に書かれた交響曲第1番、サクソフォーン・ソナタと並んで彼の名を全米に知らしめた作品である。

第1楽章は、変拍子のように聞こえるが常に3拍子である。これはアクセントを駆使したヘミオラの効果によるもので、クレストンが好んで用いた手法である。付点リズムを伴った歯切れのよい主要主題と、持続低音上での3度音程の堆積による副次主題が提示されたあと、2つの主題が見事に混ざり合う。

第2楽章は、揺れ動く並行和音を主体とした幻想的な緩徐楽章。中間部にはカデンツァ風の楽句が置かれる。

第3楽章では、マリンバの高音による躍動感溢れる主題がめまぐるしく疾走する。転調も甚だしく、音色が鮮やかに変化する。

ジョリヴェ:トランペットと打楽器のための『エプタード』より

アンドレ・ジョリヴェ(1905～74)の『エプタード』(1970)は、トランペットと16種類もの打楽器が用いられた作品で、トランペットの名手である友人のモーリス・アンドレ(1933～2012)のために書かれた。師のエドガー・ヴァレーズ(1883～1965)から継承した打楽器の音使いも活かされている。全7楽章のうち、本日は5つの楽章が抜粋で演奏される。

第1楽章では、朗唱風のトランペットに対し、打楽器が軽やかな合いの手を入れていく。

第2楽章は、軍隊調の小太鼓で始まる。“piacere(喜び)”と書かれた中間部では、ワウワウ・ミュートを使ったトランペットにコミカルな音色で打楽器が応える。

第3楽章では、副題“Cantante(歌手)”が表す通り、トランペットが叙情的に歌う。背後で打楽器が奥行きある世界を作り出す。

第4楽章の“Veemente”とはポルトガル語で「激怒」の意。ボンゴを中心とした快活でプリミティヴな一曲。

第7楽章では、最大7段譜で書かれた多彩な打楽器が、その音高差を利用して、超絶技巧を駆使したトランペットの音高を模倣していく。

プロコフィエフ(竹島悟史 編曲):バレエ音楽『ロメオとジュリエット』より

セルゲイ・プロコフィエフ(1891～1953)の『ロメオとジュリエット』は、ウィリアム・シェイクスピアの同名の戯曲に基づいたバレエ音楽である。作曲家自身が、劇作家アドリアン・ピオトロフスキーと演出家のセルゲイ・ラドロフの助力を得て台本を執筆し、故郷ソヴィエトに戻った1935年に、52曲から成る約2時間半の音楽を完成させた。

本日は、竹島悟史の編曲により、以下のシーンの抜粋で演奏される。

「**モンタギュー家とキャピュレット家**」では、両家の対立が不協和音で表される。

「**少女ジュリエット**」では、キャピュレット家のお転婆娘が駆け回る。

「**ロメオとジュリエット**」は、有名なバルコニーのシーン。愛の主題。

「**ティボルトの死**」は、激しい決闘のシーン。3拍子の葬送行進曲が鳴り響く。

「**ジュリエットの寝室**」では、婚約者パリスとの結婚に逆らおうとするジュリエットの心境が綴られる。

「**ジュリエットの墓の前のロメオ**」は、最後の悲劇の場面。駆け落ちするために秘薬を飲み眠りにしていたジュリエットをロメオが発見し、絶望のあまり自死する。その後、眠りから覚めたジュリエットも命を絶つことになる。